

衣のNGO

ふるぎのゆくえをいかける

JFSA

わたしたちの暮らしをささえる

せかいのまおとさをかしたえる


NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10
Tel・Fax : 043-234-1206
E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp
ホームページ : <http://www.jfsa.jpn.org/>

会報 48号 2018年12月

パキスタン派遣報告

子どもたちが家族のために働くことを自らの誇りとする気持ち、学校に通って学び友だちとともに時間を過ごす事、どちらもたいせつだと感じます。しかし、子どもたちは過酷な条件のもとで働いていたり、そのことが隠されていたりすることもあります。アル・カイルアカデミーは学びの機会を作ると同時に、働く子どもたちの現実に寄り添って支えになることも期待されている存在だと思います。

(5ページより一部抜粋)



アル・カイルアカデミー本校前の広場 午前の授業が終わり下校する子どもたち
奥に見える4階の建物がアル・カイルアカデミー本校

目次

パキスタン派遣報告

「働く場作り」

2～3p

「扉の中」

4～5p

JFSA第16回定期総会報告

6～7p

千葉センター便り「kapre(カプレ)千葉店」

8p

東葛センター便り「バザール」

9p

心根(こころね)フリマ通信

「実行委員会に参加しているフリーマーケット」 10p

送り出し報告 11p

チャエケサート

「ここでは政治と宗教の話は厳禁」 11p

JFSAからのお知らせ 12p



働く場作り

アル・カイルアカデミーのキャンパス3に設置されたソーラーパネルと学校スタッフのカラムさん

国内事業担当事務局 入江 賢治

キャンパス3のソーラーパネル
2018年10月にキャンパス3に設置されたソーラーパネルの確認をしました。このソーラーパネルにより、敷地内にある井戸水を汲み上げ、その水を浄化する設備を動かす、衛生的な水が利用できるようになりました。設置のための費用はハサンリム生協連合会（韓国の生活協同組合）からの支援金を基に賄われました。設置の目的は、キャンパス3の子どもたちと、丘を隔てたところにあるごみ捨て場「カチラクンディ」の集落に住む住民たちが安全な水を利用できるようにすることでした。カチラクンディの中には約6千人の人たちが住む集落があり、約300人の子どもたちがそこにいます。キャンパス2に通っています。集落には公共の水道は来ていません。住民は水販売業者がタンクローリー車で運んできて、プールのような水溜りに溜められた水を買って、飲料・生活用に利用しています。水はバケツ1杯15ルピーです。住民が野焼きされたごみの中から有価物を集める仕事の稼ぎが一日200〜300ルピー程であることを考えると決して安くはありません。プールは屋外に

あり、野焼きされたごみの灰が入ったり、気温の高い時期もそのままになっているため、とても衛生的な水とは言えない状態です。ハサンリム生協連合会の役員の方々が2016年2月にパキスタンを訪問した際、この水事情について知り、何か出来ることはないだろうかと思案を受けました。そこから始まりました。カチラクンディでアル・カイルアカデミーが直接水を提供することは、現在、水を販売している業者の利権とも絡むことになり難しいことでした。そのため、遠くない距離にあるキャンパス3にある井戸水を活用し、そこで水を提供することになりました。

るのを嬉しそうに見ているのが印象的でした。
ごみ捨て場で暮らす人たちはそこで何とか自力で稼いで生活しています。その存在は政府に認められていません。公共の電気や水道、道路などインフラ設備は何もありません。弱い立場におかれた人たちの暮らしほど、さらに苦しい生活環境に追いやられていく構造の中にあると思います。アル・カイルの活動がそのスパイラルの歯止めになんてほしいと思います。

輸入古着買い付け

今回も古着卸売業者のワリー氏からアメリカやヨーロッパの古着を買い付けました。昨年度（2017年10月〜2018年9月）、古着販収入全体に占める輸入古着の割合はおよそ2割になりました。これは、輸入古着の需要が背景にあることを示しており、今年度も引き続き、需要に応じた仕入れを行なう計画です。また、近年、古着等の回収量が計画を下回る結果となり、国内販売用在庫が不足する事態が起きています。その不足分を補う目的もあります。

今回の仕入れは、カラチ特別輸出加工区（通称ゾーン）にあるワリー氏の倉庫で主に行ないました。私の楽しみのひとつは、そこで働く若者たちと再会することです。倉庫では約20人ほどの若者が働いています。ほとんどはワリー氏と同じパキスタンとアフガニスタンの国境に近いエリア出身で、彼を頼って働きに出てきているパシクトゥーン人です。倉庫で寝泊まりしている若者たちもいて、高校の運動部の合宿のような雰囲気があります。調理場もあるので、食事は料理担当が作り、皆で食べています。彼らの郷土料



カチラクンディの集落の中にある水溜りから水を買う女性

理を作ってくれる時もあり、独特の味付けでもとても美味しいです。若者たちは荷物の仕分け・移動・保管などの仕事をしながら、合間合間で冗談を言ったりして、ふざけあつたりしています。パシクトゥーン語なので内容は分かりませんが、大さわざしている様子は楽しそうです。その中の一人でウスマーニーという青年とは腕相撲をやったことから、近しく感じるようになりました。日本にいる時も、再会した時に腕相撲で負けないように鍛えておかねば！と頭に彼が浮かびます。彼が私たちのために選んだ品物がとても良いものだった時に、感謝の言葉を伝えると、「まかせときな！」という表情で喜んでいました。ワリー氏の下、彼らの働きがビジネスになる仕組みができていて、同郷の若者たちが大勢働く場ができています。彼らの労働条件のことは詳しくは分かりませんが、ともに働く仲間の中で何かあれば助け合う関係性があるように見えます。



選別作業中のチャイタイム

事務局の入江（左）とカツラをかぶっておどけるウスマーニー（右）

「仕事」について何が出来るのだろうかと感じてきました。AKBGが立案している「新規事業」は自分たちの拠点をもち、古着販売収益を増やすための仕組みを作り、学校の運営費を増加させます。それは「働く場作り」への取り組みでもあります。AKBGに送られた古着が、「収益」としても「働く場作り」としても、より活かせる仕組みを作り、そこで働く人たちがやりがいを持って、楽しく働ける場を地道に目指していきたいと、ワリー氏の倉庫で若者たちを見ながら思いました。



扉の中

アル・カイルアカデミー本校から歩いて5分ほどのところにある縫製工場

協働事業担当事務局 田邊 紀子

昨年から、縫製工場のとなり職業訓練所の縫製クラスが移ってきています。入り口を入って左側が縫製工房、右側が縫製料の教室です。生徒たちは縫製の仕事をしているスタッフの働いている様子が見られるし、工房のスタッフは学んでいる生徒たちの様子を感じることができません。工房から聞こえるミシンの音を、生徒たちはどんな風感じているのでしょうか。

アル・カイルアカデミーの生徒たちの家族には、家で仕立ての仕事をしている母親もいます。縫製工場に働いている兄弟もいます。今回は縫製の仕事の現場を知りたいと、学校の近くにある50人くらいが働く縫製工場を見学させていただきました。

スラムにある縫製工場

工場は、学校から歩いて5分くらいの道路を挟んだ向い側の地区にある3階建ての建物です。道に面して金属製の扉があり外から見ると何をしているのかわかりません。鍵を開けてもらいの中に入ると、1階は倉庫、2階はミシンが10数台並んで縫製が行なわれていて、小さな男の子たちも3〜4人働いていました。訪ねたのは平日の午前中だったので、男の子たちは学校には行っていないのでしょうか。3階では女性たち10数人が床に車座に座って製品の点検とパッキングを行っていました。

オーナーの男性は、息子たちといっしょにこの工場を経営しています。2階の作業場の見える小さな部屋でチャイをいただきながらどんな仕事をしているのか話を聞きました。この工場で作っているものはパキスタン国内で販売されるもので、輸出用ではないそうです。この日は、小さな子どものニット生地ズボンを作っていました。

3階にいた女性たちのうちの一人は、同行してもらったタスニムさんに聞くと、アル・カイルアカデミーの幼稚園クラスに来ていた子どもが家族で引越して行った、おそらくその後は学校には通わなかったらうと言っていました。また、か

なり高齢に見える女性もいて元気に仕事をしていました。年を尋ねたところ、パキスタンよりも年が上だと言います。パキスタンがイギリスから独立した1947年よりも前に生まれたのです。71歳を超えていることになりませんが、今も工場に働いているのは彼女の収入が家族に必要とされている状況なのだろうと思います。

オーナーは少し私たちのことを警戒しているようでした。AKBG事務局のカユムさんに、スラムにある縫製工場の見学を頼んだとき、「ワカリマシタ OKデス」と言ってもらっていましたが、工場の入り口の扉の前でカユムさんは、工場のオーナーは、子どもたちが働いていることを知られるのを恐れていると言いました。8年前にJFSA事務局が訪ねたラスク工場も、子どもたちが働いている労働現場で、場所はアル・カイルアカデミーの目の前にあるのですが、学校には行っていませんでした。

カラチ市内と子どもたちの状況

8年前に比べればカラチ市内の道路の整備はすすみ、走る車も状態のよいものの割合が多くなってきています。大きなショッピングセンターも増えています。一人当たりGDPの上昇率は140%になっています。しかし、物価は同じ期間で約2倍になっています(JETRO)。10歳以上の識字率は60%(2015/2016パキスタン統計局)で、これはほとんど変わっていません。多くの子どもたちは学びの機会を得ることなく、小さなころから働いて収入を得なければならぬ状況はかわっていません。

アル・カイルアカデミーは、分校も増えて学ぶ子どもたちの人数は2006年の2千400人から2018年には4千500人と約2千人増えました。しかし、ムザヒル校長から、家にお金がないときは、母親は自分の食事を減らすと聞きました。朝はチャイ1杯だけ、昼食は食わずに夕食は家族といっしょに食べるそうです。子どもたちが家族のために働くことを自らの誇りとする気持ち、学校に通って学び友だちとともに時間を過ごす事、どち



アル・カイルアカデミー キャンパス5で学ぶ男の子たち

らもたいせつだと感じます。しかし、子どもたちは過酷な条件のもとで働いたり、そのことが隠されていたりすることもあります。アル・カイルアカデミーは学びの機会を作ると同時に、働く子どもたちの現実寄り添って支えになることも期待されている存在だと思います。



カラチ市内に増えているショッピングセンター内の女性衣服の生地のお店
こうした所で買い物をするは、ミドルクラス以上の暮らしをしている人

第16回JFSA定期総会

●国内販売事業

①千葉ショップ
セールやイベントに合わせて広報宣伝を行ないました。これまでのチラシ・ハガキでの宣伝に加え、ブログを再開し、インスタグラム・フェイスブックを新たな宣伝ツールとして始めました。若い年代のお客さんの来店が増え、輸入古着の売り上げにつながっています。

②柏店（古着ショップ kapre(カブレ)）
売り上げは昨年度以上の結果となりましたが、古着回収の減少に伴い国内在庫が不足したため、輸入古着の取り扱いを増やすことで対応しました。

③街商販売（フリーマーケット、その他）
会場ごとの特性をつかみながら、古着フェスティバル、大井競馬場、味の素スタジアム、RAW TOKYO などを中心に売り上げを伸ばしました。着物販売にも力を入れました。



2017年度から始めた「軒先市」
千葉センターで毎月第二土曜に行なっている

●アル・カイルアカデミーの教育・連帯事業に関わる

パキスタンの人々と交流

17年10月19日～27日にムザヒル氏とカユーム氏、18年7月2日～9日にムザヒル氏、タスニーム氏、サルマ氏（縫製工房リーダー）を招きました。滞在中は、協力団体の訪問、イベントへの参加、コンテナ送り出し作業の参加などを行ないました。協力団体からは、オイシックス・ラ・大地株式会社から2名、環境まちづくりNPOエコメッセ理事長、古着ショップ「vintage clothing ALASKA」から2名、ハンザリム生協連合から4名、グリーンコープ連合から6名、が事務局派遣に同行しました。また、JFSAのアルバイトスタッフ1名、ボランティア1名が事務局派遣に同行しました。



リサイクル着物市を見学するタスニームさん（左）と
縫製工房リーダーのサルマさん（中央）とJFSA事務局の田邊（右）

監査報告書

私たち監事は、2017年度（2017年10月1日から2018年9月30日）の当会の事業と活動および決算と会計諸表について、10月31日に監査を実施いたしました。

その結果、当会の事業と活動は総会の決定にもとづいて滞りなく遂行され、決算と会計諸表は法令および定款に従い適正に処理されていることを確認いたしました。

2017年度は、古着の回収実績は101.7トンと昨年度の実績とほぼ同量でした。協力団体への回収呼びかけ、各種イベントでの情宣等を積極的におこないましたが、年度計画の120トンに届きませんでした。昨年の振り返りから年度初めにホームページのリニューアルをおこないましたが、参加者、回収量共に前年の8割に減ってしまいました。リニューアルされたホームページですが、サイトから直その場で活動に参加できるように（WEB上で会員登録ができる等）ホームページのブラッシュアップが必要です。

4回の輸出は計画どおり達成できましたが、（4回目はコンテナを一杯にできなかった）本会活動の基本にかかる事業で4年続けて回収計画が未達成であったことは、事業を継続していく上で大きな課題です。専任の回収担当者（営業職）の配置を検討する等、回収計画の策定と実現のための道筋を作り、実行していくことが重要です。

販売事業では、SNSを活用した情宣をおこないました。新たな客層の確保でき、売上UPにつながっています。今後も「動きのある生きた情報発信」を継続・進化させ、活動を広げていくことが大切です。

フリーマーケットは会場ごとの特性をつかみながら、売上をのばすことができました。前年比127.5%の売り上げです。今後は外国人向けの和服の販売等、客層に合わせたイベントの開発等が必要です。

事業全体で4期連続黒字を達成することができたことは、大いに評価されるべきだと思います。一方で、個人の会員、支援メンバーともに新規入会者は140名ほどありましたが、前年度より総数では70名ほど減少しています。

会員・支援メンバーは当会の基本的な活動基盤であり、会員の増減は活動支援の輪の広がりのパロメーターでもあります。会員増をめざすには広報活動の強化が必須です。

WEBでの日常活動の報告（毎日の動きがわかること）や会員募集等を積極的に行うことが継続課題です。積極的なWEB広報を利用し、JFSAの活動理念と実践とを積極的に会員や社会に知らせてくれるよう期待いたします。

JFSAの活動の「価値」がさらに共感を得て広がることができるよう、役員、職員、会員の皆さまや団体会員・支援メンバーの皆さま一丸となって、活動計画の達成に邁進いたしましょう。

2018年10月31日 監事 水谷靖之
熊谷浩二

11月21日（水）JFSA千葉センター



JFSA 定期総会（JFSA 千葉センター）

11月21日（水）、JFSA千葉センターで定期総会を行ないました。当日は82名の出席（本人出席20名、委任状出席62名）があり、議案は全て承認されました。

議案は①事業・活動報告
②決算報告・監査報告
③活動方針案・予算案
④役員を選出に関する件の4点でした。

●2017年度古着などの回収量とアル・カイルアカデミーへの送り出し

| 回収期間 | 回収量 | 送付人数 |
|------------------|---------------|--------|
| 2017年9月1日～12月31日 | 36トン 516.6kg | 7285人 |
| 2018年1月1日～4月30日 | 27トン 237.4kg | 4292人 |
| 2018年5月1日～8月31日 | 37トン 933.7kg | 5431人 |
| | 101トン 687.7kg | 17008人 |

2017年度の回収は、計画を120トンとしました。センターでの回収受付期間は年に3回もうけました。回収実績は前年度とほぼ同量の101.7トンとなり、計画に届きませんでした。

計画した4回の送り出しを実行しましたが、第62回コンテナは輸出在庫が不足し、満載にして送り出すことができませんでした。

| | コンテナ積込み | AKBG受渡し倉庫着 | 送り出し量 |
|------|---------|------------|------------|
| 第59回 | 1月31日 | 3月14日 | 23トン 806kg |
| 第60回 | 4月25日 | 6月13日 | 23トン 617kg |
| 第61回 | 7月4日 | 8月17日 | 24トン 163kg |
| 第62回 | 9月26日 | 11月28日 | 23トン 200kg |
| 合計 | | | 94トン 786kg |



4月25日に行なわれた第60回コンテナ積込み

●AKBGとの事業連帯

- 事務局の派遣 ①AKBG事業活動の推進②アル・カイルアカデミー教育事業の視察などの目的で事務局をパキスタンに派遣しました。
- 古着販売事業 JFSAからは4本、グリーンコープ・ファイバースイッチ事業部からは3本、ハンザリム連合からは1本のコンテナが輸出され、すべて卸業者のワリー氏・ニアズ氏に販売されました。JFSAの平均卸価格は89ルピー/kgで前年度（103ルピー/kg）を下回りました。要因は、アフガニスタンの関税率の上昇、イランへの輸出禁止という卸業者ニアズ氏の販路の影響と、パキスタン国内への古着輸入量増加による相場が低下したというパキスタンの古着市場全体の影響があると考えられます。
- パキスタンから国内販売用の古着を輸入 パキスタンにはヨーロッパやアメリカなど世界中から古着などが集まっています。回収量が目標に大きく達しないこと、輸入古着の販売も好調のため、昨年対比201.6%（予算対比219%）を仕入れました。売上は昨年対比で209.1%となりました。
- 縫製工房 地球市民交流基金アシアンの縫製工房製品開発に協力しました。グリーンコープ食育ワーカーズのエプロンのオーダーを受けましたが、1回目の納品が遅れてしまい、JFSAでの検品が行なえませんでした。生活クラブ東京50周年記念の取り組み品の依頼を受け、エコバッグのオーダーが決まりました。

活動報告・会計報告の詳細はホームページで公開しています
(<http://jfsa.jpn.org/jfsareport>) 併せてご覧ください

12月9日(日)、千葉センターで毎年恒例のチャリティバザールを開催しました。それと合わせて、倉庫内の改装、お店のリニューアルオープンをを行いました。

昨年度は、海外古着の取り扱いを本格的に始め、インスタグラムを使ってお店や商品の紹介も始めました。近所の方々だけではなく、目当ての物を探しに来て下さる方も、少しずつですが増えています。12月末には、パキスタンで買い付けてきた古着が、約10トン届く予定です。それに合わせて商品数をもっと増やしたいと考えているのですが、今の売り場面積では手狭なため、売り場を拡大することにしました。そして、倉庫内全体の物の配置を一から考え直し、回収し分けし保管し梱包しパキスタン輸出という流れがよりスムーズになるようにしよう！ということに決めました。使っていないものを処分しながら、現在徐々に場所を移動しているところで、年内には改装が終わる予定です。

まずは、お店の方をチャリティバザールの日にリニューアルオープンすることになりました。それとあわせて、お店の名前を「Kapre (カプリ) 千葉店」とすることにしました。これまで「JFSA古着ショップ」と名乗っていましたが、お店の名前を付けたという話はずっと前から出ており、柏店で使っている「Kapre」と一緒にすることに決めました。千葉店、柏店だけでなくフリー

マーケットも含めて、JFSAの販売の場どこにきていただいても、同じようなものが同じような価格で手に入るといところが、アピールしたいポイントです。ですが、古着なので全く同じものは手に入らない、というところもまた魅力の一つです。

12月7日、選別作業にも来ている千葉ダルクのメンバーがJFSAに集結しました。お店の拡大にあたり、これまで在庫置き場として使っていた大きなスチールの棚を動かして、新しい棚を入れるため、ボランティアとして手伝いに来て下さいました。昔は鷹職だったという方もいて、手際よく皆で声を掛け合い作業が進み、柱を伝って軽々と上の段に上り、あっという間に大きな棚が4つ組みあがりました。この大きな棚は、在庫置き場兼お店と倉庫を仕切る壁になります。

皆さんの協力のおかげで、12月9日(日)は、リニューアルした「Kapre 千葉店」をお披露目することができました。広くなってよりお店っぽくなったねと、好評です。まだお店の壁を貼っていないため、組み上げた棚は、お店に入るとドンとそびえ立っているのが見えます。常連のお客さんたちも見慣れない光景に、どうしたの!とびっくりしていますが、こうゆうわけで、皆で組み立てたんですよと話す、さらにびっくりします。ダルクの皆さんは、JFSAに来てこの棚を見ると、組み立てた日のことを思い出してくれるの

ではないでしょうか。JFSAのお店ではありませんが、お客さんをはじめとして色々な人の想いが詰まったお店になると良いと思います。

千葉ショップ担当事務局 大橋 紀子



ダルクの皆さんと一緒に組み立てた大きな棚

東葛センターでは一年に二度、バザールを行なっています。今回は昨年の同じ時期よりも少し早めの12月2日に開催しました。店内商品のスーパースールだけでなく、JFSAのスタッフが作るパキスタンカレーやピリヤニなどの販売、餅つき、近隣のお店・団体・個人の方々の出店、服を楽しむ展、特別写真展といった催しも東葛センターの倉庫の中や外で行ないました。

普段はやらない食べ物の販売では、時折買物にも来て下さるインドの方がたまたま東葛センターの前を通り、「ピリヤニが食べれるんですか?」と寄ってくれたりもしました。カレーやピリヤニをなつかしい味だ、と一通り食べた後につきたてのきな粉のお餅を食べた結果、お餅が一番おいしかったと言っていたことを後でスタッフから聞きました。

服を楽しむ展では「襦袢(ほろ・らんこ)」を古着や靴にパッチワークして作られた作品を展示・販売していただきました。襦袢という単語をネットで調べてみると「使い古して役に立たなくなった布。質が劣る物。」といった意味の布です。一度は布としての役割を使い切ったともいえる襦袢が古着と掛け合わせることでもう一度役割を担う事ができるようになります。これはJFSAに皆さんの協力によってたくさん集まった衣類や毛布などがスタッフやボランティアの方々によって仕分けされ、国内の店舗での販売やパキ

タンへの輸出によってふたたび役割を得ることと似ているのかもしれない。

特別写真展では、協力団体でもあるオイシックス・ラ・大地株式会社の職員の方がJFSAスタッフのパキスタン派遣に折に触れて同行し、パキスタンやアル・カイルアカデミーの様子を撮影した写真を展示させていただきました。自分でカメラの設定や光源をそれほど気にしなくても簡単に撮影ができてしまうデジタルカメラが安価になってきているなかで、白黒のフィルムカメラを使っています。光や角度をすべて考えて数百枚を撮り、その中で使いそうなものは10分の1以下だそうです。日常の中でパキスタンという国や特にJFSAの関わるアル・カイルアカデミーという場所には目に触れる機会がほとんどない中で、存在感のある数十枚の写真がみなさまから寄付していただいた衣類や毛布などを通じて繋がっている事を感じさせてくれます。

今回のバザールは、柏店の常連さんたちが次から次へと顔を出してくれました。餅つきやレジの合間に話をしながらお客さんどうしも繋がっていつている様子がとても嬉しかったです。次のバザールはまた半年後。今回は新しい企画を盛り込みたいなあ、と思索しながらたくさんの方々が来るのを楽しみにしています。

東葛センター担当事務局 小島 慧



東葛冬のバザール
上: スタッフお手製のパキスタンカレー
右: 「服を楽しむ展」パッチワークされたスニーカー



第62回コンテナ送り出し 23トン200kg



毎週水曜日に選別作業に来ているワーカーズコープ「オアシス」の皆さん

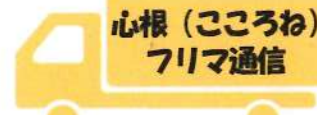


上の部分が空いてしまったコンテナ

9月26日(水)千葉センターにて第62回コンテナ送り出しを行ないました。
今回の送り出しは昼以降から雨が心配される中での実施でしたが、当日の積込みにご協力いただいた皆様のおかげで雨が降り出す直前に終えることができました。ご協力ありがとうございました。

今回の送り出しはおよそ25トンまで積みこむことができるコンテナに対して23トンの200キロという結果になりました。数字だけを見ると2017年度の過去3回の平均が23トン862キロで、いつもより若干少なくなってしまったかな?という感じですが、実際には50キロのペールが20〜30個ほど入るスペースが空いてしまう形でパキスタンへの輸出用のペールなどを使い切ってしまう、そのままコンテナを送り出さざるを得なくなりました。ペール作りが送

り出し当日に間に合わなかったわけではなく、当日の天気が悪くなりそうだから途中でやめてしまったわけでもありません。
2017年度の衣類・毛布等の回収計画であった120トンに対して実際には前々年度とほぼ同量の101.7トンの回収実績だったことが要因だと思われまます。前年度の過去3回はそれまでの回収量に多少余裕のある時に作ったペールのストックを切り崩す形でコンテナをいっぱいにしてきましたが、今回はその貯金を使い果たしてもいっぱい出来ませんでした。
子どもたちが学校に通い続けることができるようにスタッフとみなさんまで目標を達成するためにお知らせしたいの方々にお声かけいただければ嬉しいです。
東葛センター担当事務局 小島 慧



実行委員会に参加しているフリーマーケット

街商事業担当事務局 依知川 守

● 新松戸チャリティーフリーマーケット

(松戸市 新松戸中央公園)

さまざまな分野で活動している市民団体、NPOなどが実行委員会をつくり毎年2回(春と秋)開催しています。フリマだけではなく、食べ物コーナーや地元の農家さんによる野菜直売コーナーなどもあります。このイベントのユニークな点は、全ての出店者は売り上げの10%を出店料として納め、経費を引いた収益金を「地域資金」としてのことです。「地域資金」は実行委員会メンバーを含む地域の市民活動支援のために拠出します。パキスタンでの大地震と洪水被災地支援に対しても、2回拠出されました。また「できるだけゴミを出さない」ことを目指し、マイ食器持参を呼びかけるとともに、会場では食器レンタルができる「おわん屋」も実行委員会によって運営されています。JFSAは古着などの販売で出店しています。

ホームページ<http://scfm.dora.kiramori.net/>

● アースデイちば (美浜区 稲毛海浜公園)

アースデイは4月22日を地球環境について考える日としよう、1970年にアメリカで誕生しました。誰でも自由に参加でき、アースデイちばには、主に千葉県で環境問題に取り組んでいる市民団体や手作りの作家など、様々な団体・個人が参加しています。JFSAは古着販売、衣類などの回収で出店しています。

ホームページ<https://www.earthday-chiba.org/>

イベントなどを開催する場合、単独で主催するのではなく、複数の団体や個人が協力して「実行委員会」というものが作られることがあります。NPOや市民団体が参加する実行委員会では、開催の準備や当日の運営、そして次の開催への振り返りなど具体的なイベントに関わる部分だけではなく、お互いの活動を紹介し合うなどして繋がりが生まれる場でもあります。今回はJFSAが実行委員会に参加しているイベントをご紹介します。

● つながりひろがれ「ぽっぽの市」

(美浜区 稲岸公園)

年2回(4月・11月)開催しているイベントです。不用品のリユースを進めるためのフリマ開催、地域で活動する市民団体・手作り品作家・個人の交流の場づくり、そして地域社会と国際協力を結ぶことを主な目的としています。元々はJFSAが活動紹介と販売の場を作るために「チャリティーバザール」として2012年11月に初主催しました。その後8回目からは地元のショップや福祉団体、カフェなどと協力して実行委員会をつくり、イベント名を現在の「ぽっぽの市」に変更しました。回を重ねるたびに参加者が増え、今年の11月開催時はフリマを含め98軒が出店しました。またイベントの運営や、JFSAのブースには千葉ダルクや敬愛大学ボランティアサークル「Love and Action」のメンバーそして個人も含め21名のボランティア参加がありました。

キャッチフレーズの「つながりひろがれ」は、手作り品や食べ物の作り手、フリマでの不用品の売り手、市民活動の担い手が、来場する買い手、使い手と直接会うことで新たな、そして継続的な「つながり」が生まれ、さらに紙芝居や投げ銭ライブ、ワークショップも含めた様々な企画を通して地域に暮らす人同士が出会うチャンスが生まれるイベントを目指しています。そしてJFSAは、このような様々な手と手が具体的に会う場で活動を伝えることで、パキスタンで暮らす人々についてより身近に感じてもらえればと思っています。JFSAはイベント全体の運営を担うとともに、当日は古着販売と回収で出店しています。

ホームページ<https://popponoichi.jimdo.com/>



11月に行なったぽっぽの市
近隣にお住まいの方に、衣類や毛布などの回収を呼び掛け
64名の方から354KGのお持ち込みがあった

ここでは政治と宗教の話は厳禁

ヤハーン パルスィヤースィ オウル マスビー
グフトゥグ カルナー サフトゥ マナー ハイ



● チャエケサートの意味は...

パキスタンの公用語、ウルドゥー語で「チャエ」は「温かいミルクティー(チャイ)」、「ケサート」は「一緒に」で「チャイと一緒に」という意味になります。パキスタンではチャイを飲みながら、賑やかにしゃべりを楽しみます。

ている会話は、政治や宗教の話が多い気がします。

パキスタンに行った際、「床屋政談」という言葉を初めて知りました。床屋に来た客が、散髪してもらいながら店主と噂話でもするよつに政治談義をすること、理論的裏付けのない、感情的で無責任な政治談義のことです。江戸時代、床屋と銭湯は人が集まる場所、その頃からある言葉のようです。

ムザヒルさんに、パキスタンでもそのような言葉はあるのかと訊いたところ、「ここでは政治と宗教の話は厳禁」という言葉は昔からあって、今でも古い食堂に行く、壁にその言葉が書いて貼ってある、と言います。

パキスタンの人たちは、知らない人同士でも、食堂やバスなどで隣に座った人とよく話をしています。親密そうに話をしているの、友達同士かな、と思つただけに座っているだけの人、という「チャイ」を見かけて、びっくりします。確かに、その中で交わされ

パキスタンはイスラム教の国ですが、イスラムに対する考え方は、各々独自の考えを持っていきます。100人いたら100通りあるかもしれない。その話を始めると、話は平行線のように自分主張をぶつけ合い、だんだんとヒートアップしていきます。ムザヒルさんやその周りの人も例外ではなく、そのような場面を何度か見たことがあるので、この張り紙の話にはとても納得です。

今度、その張り紙がある食堂に行ってみよう、とムザヒルさんにお話をしました。

千葉ショップ担当事務局
大橋 紀子



カラチ市内の食堂
男性の前の穴はタンダーンで
側面にナン生地を貼りつけて焼く



JFSA出店の主なフリーマーケット会場

大井競馬場(品川区勝島) 味の素スタジアム(調布市西町) 赤羽公園(北区赤羽)
世田谷公園(世田谷区池尻) 千葉銀座通り(千葉市中央区)

天候やスケジュールの都合で出店できないこともあります。予めご了承ください。

フリマ情報ホームページ、変更しました: <https://jfsa.jimdofree.com/>



JFSAの会員・支援メンバーを募集しています

JFSAは正会員及び賛助会員（支援メンバー）で構成されています。

（正会員 個人：109名、団体：10団体 賛助会員 個人：929名、団体：5団体 2018年12月10日現在）
 正会員によって活動の様々な事柄が決定され、賛助会員の協力によって活動が支えられています。
 そして皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推し進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内（年3回）、サポーターグッズ（年1回）をお送りします。

●年会費（10月～翌年9月）

個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円
 団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円

●会費振込み口座（郵便振替）

番号：00160-7-444198

口座名：JFSA

*活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。
 通信欄に「寄付」とお書き添え下さい

衣類・毛布などの回収スケジュール

受付品目は期間ごとで異なります。ご注意ください。

以下の日程以外での回収もごさいます。日時・場所については決まり次第ホームページでご案内いたします。
 お電話でもお気軽にお問合せください。（043-234-1206 木曜定休 9時～19時）

| JFSA会員・支援メンバー | 1月18日～3月27日 | 5月10日～7月17日 | 9月13日～11月20日 |
|---|-------------|-------------|---------------|
| パルシステム千葉、ポラン広場 パルシステム茨城 栃木 団体以外の方 | 1月18日～2月20日 | 5月10日～6月12日 | 9月13日～10月16日 |
| オイシックス・ラ・大地 （大地を守る会、オイシックス） | 1月25日～2月27日 | 5月10日～6月12日 | 9月13日～10月16日 |
| 生活クラブ東京、生活クラブ虹の街 生活クラブ埼玉 | 2月22日～3月27日 | 6月14日～7月17日 | 10月18日～11月20日 |

JFSAでのボランティア募集

★第63回コンテナ送り出しボランティア★

日時：1月30日（水）8時半～15時頃
 場所：JFSA千葉センター
 （千葉市中央区都町3-14-10）

★ぽっぽの市 ボランティア★

日時：4月 日付未定 日曜 8時～16時頃
 場所：稲岸公園
 （千葉市美浜区稲毛海岸4-15）

★船橋駅北口デッキ 大古着市★

日時：4月 日付未定 土曜・日曜
 8時～17時頃
 場所：JR船橋駅北口デッキ（イトーヨーカドー側）

★その他のボランティア

- コンテナ送り出し作業（年4回）
- イベント・フリーマーケットなどでの協力（週末）
- 切手やハガキの整理
- 会報など発送作業（年4回）
- 古着の選別体験（グループ対応）
- 和服整理ボランティア（毎月第1火曜日10時半～）

◆ボランティアに関する問合せ先◆

JFSA事務局（木曜定休 9時～19時半）

電話・FAX：043-234-1206

メール：jfsa@f3.dion.ne.jp

ホームページ：www.jfsa.jp.org

*ボランティアは無償です。

交通費や食費はご自分で負担していただいています。

NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）（9時～19時／木曜定休）

千葉センター 千葉市中央区都町3-14-10 東葛センター 柏市大室176-1

Tel：043-234-1206

Tel：04-7110-0984

★会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください。

電話・fax：043-234-1206 メール：jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ：http://jfsa.jp.org



フェイスブックにて
 イベントの紹介などとしてます♪
 「古着屋JFSA」で検索！



インスタグラムにて商品の紹介などとしてます♪
 kapre (カブレ) 千葉店「jfsa_usedclothing」で検索！
 kapre (カブレ) 柏店「kapre_usedclothing」で検索！

JFSAの
 ホームページ

